

## MIL 9.0 サンプルプログラム一覧

名称	内容
mapstart	MIL アプリケーションやシステムを割り当て、グラフィックス関数を使って歓迎メッセージを表示します。また、エラーチェックの仕方も示します。
mbufcolor	カラーバッファ操作を説明します。カラーイメージバッファの表示を割り当てて読み込む。画像処理を利用可能なら、HLS(Hue(色相) Luminance(明度) and Saturation(彩度))に画像を変換し、明度にオフセットを足して、RGB 画像に戻します。
mdiggrab	連続的とモノショットモードでのカメラからの画像の入力を示します。
mdiggrabsequence	リアルタイムで連続物を入力しアーカイブする方法を示します。
mdigprocess	リアルタイムプロセッシングを実行する MdigProcess()関数の使い方を示します。ユーザの処理コードは入力した各フレームに呼ばれるフック関数に書かれています。
mdigdoublebuffering	ダブルバッファで入力し、プロセッシングタイムを計り、統計値を示します。
mdighook	デジタイザフック関数の使い方を示します。フックを使って連続画像を捕らえ再生する。また、それぞれの入力終了のイベントで、バッファに注釈を加えます。
mdigautofocus	MdigFocus()関数を使ってオートフォーカス操作する。実際のカメラレンズを動かすことは装置固有なので、レンズの動作とカメラ入力を外し、スムージング操作でレンズフォーカスをシュミレーションします。
mdispwindowleveling	10bit モノクロ医療画像の表示の仕方と、Window Leveling インタラクティブの動作をする LUT を適用します。
mdiscoverlay	テキストを作っている間 Windows 下での MIL グラフィック関数や GDI 描写を使ってグラフィック注釈を画像の上に示します。目標システムが入力をサポートするなら、ライブビデオ上で注釈をします。
MDispWindow	歓迎メッセージを表示します。ユーザによって作成されたクライアントウィンドウに MIL バッファを表示するのに MIL システムと MdispSelectWindow()関数を使用します。
MDispMFC	MFC プロジェクト下での MIL の使用方法を示します。MFC メニュー、メニューバー、スクロールバー、ユーザの作ったチャイルドウィンドウなどを MIL のディスプレイ・バッファ・タイマー・デジタイザと統合します。
mimprocessing	さまざまな基本的な画像処理を使って、実際より大きいサイズの細胞核の数を測定します。
mimconvolve	カスタムカーネルを使って3x3のコンボリューションを実行して、コンボリューション時間を測定します。
mimhistogram	サンプルの細胞組織の画像を読み込み、強度ヒストグラムを測定し描きます。
mimsegment	不均一な照明の画像の背景を取り除き、ウォーターシェッドと縁のディテクション関数を使用します。そして、ウォーターシェッドとディテクション関数は、物を切り離すのに使用されます。
mimwarp	3つのタイプのワープ変換を行います。まず4つの指定された基準点に従って、画像を引き伸ばします。次に、それは正弦波様でゆがめて、最終的に、プログラムは球に関するイメージをゆがませながら輪にします。
mimfft	画像フィルターで高速フーリエ変換を使用します。
mimpolar	曲線を直線に変換する文字列の展開をします。
mimdeinterlace	画像のデインターレースを行います。最初、画像データをデインターレースします。次に、デジタイザが割り当てられていたら入力した画像をデインターレースします。
mimlocatepeak1d	入力されたシーケンスの各列のピークを見つけ、それを用いて 3D オブジェクトの高さを再構築します。

mthread	MIL アプリケーション下でのスレッドの使い方とイベントを使ったフレッドの同期を示します。以前は4つの異なったディスプレイバッファのリージョンを使っていたものを、4つのプロセッシングスレッドを作りました。
mblob	ナット・ボルト・ワッシャの画像を読み込み、数を数える。プロブ分析モジュールを使って、重心位置に印をつけます。
mpat	パターンマッチングモジュールの3つの例を含みます。例1はモデルを定義して(回転なしの)シフトした画像の中に捜します。例2はモデルを定義して回転した画像の中に捜します。例3はウエハー画像にモデルを自動的に割り当て、水平・垂直の移動を見つけます。
mmod	ジオメトリック・モデル・ファインダーモジュールを使って幾何学的図形を定義し、対象画像にモデルを捜してかたどります。(1種類の形状で、1個だけの、捜し安い簡単なモデルの例が最初に提示されており、次にもっと込み入った(多種類の型で、数のたくさんある、探しにくい)例を示します。
mmodeltracking	パターン認識を使ってユニークな物の追跡記録の方法を示します。それは、カメラの視野でモデルを割り当てて、輪でそれを見つけます。また、捜したモデルの座標を印刷して、その周りの枠を描きます。2つのメソッド、つまり、非常に速いのとモデル回転とスケールから独立しているより遅い Geometric Model Finder(Mmod)との標準化されたグレースケール相関関係(Mpat)を使用することで探されます。
medge	ターゲット画像に良品のシールの外側の直径を見つけて、測定するのに MIL Edge Finder モジュールを使用します。
mmeas	画像に物の位置、幅、および角度について計算するのに Measurement モジュールを使用する2つの例から成ります。1つ目は、画像におけるストライプの位置、幅、および角度を測定して、そのセンターと縁を示します。2つ目はチップの上にピンの列の平均位置、幅、および角度を測定します。
mmet	部品の幾何学的な特徴と公差を測るために、メトロロジ・モジュールを使用します。
mcal	格子の画像で高いひずみカメラを較正するのに Calibration モジュールを使用します。次に、同じカメラで撮った板の画像は読み込まれ、実体面に較正された単位でいくつかの測定をします。最終的にひずみの板の画像は、同じカメラ較正を使用することで直ります。
mcode	1D Code39 のバーコードの直線と 2D DataMatrix コードを解読します。
mocr	事前に定義された OCR フォント(SEMI 字体)を較正して、画像に文字列を読むのに OCR モジュールを使用します。次に、読まれた文字列はスクリーンにプリントし、較正されたフォントはディスクに保存されます。
mstr	ケベックのナンバー・プレートのモザイク画像からフォントを定義するのに String Reader モジュールを使用します。次に、2つの String Models が、有効なケベックナンバー・プレートを読むための定義とパラメータ化されます。そして、ナンバー・プレートの読みは路上の車の目標画像で実行されます。
mreg	未知の位置でカメラからとられる3つの画像のモザイクを作るために、レジストレーション・モジュールを使用します。
mfunc	MIL Function Developer Tool Kit と MIL とカスタムコードがそれを処理するために直接 MIL バッファのデータポイントにアクセスするカスタム MIL 機能を作成するためにどう混在可能かの使用を示します。例はすべてのパラメータを MIL に示して、Slave 機能と呼ぶ Master MIL 機能を作成します。Slave 機能は、すべてのパラメータを検索して、MIL 画像バッファのポイントを取得し、直接データにアクセスするのにそれらを使用して、定数を加算します。